

「地場産業を生かしたまちの演出と産業活性化の取組」を体験するというので、3月20日伝統産業の日の京都の事例研究を、事例研究委員会のクローズドな企画として行ないました。

京都の中でも染めの町「本能」を中心に公開工房ツアー、展示の見学、明倫学区（2月の公開事例研究委員会で講演を伺った地域）も含めたまち歩きを行い、意見交換会をして一息つき、日が落ちるのを待って「東山花灯籠」も見学しようという盛沢山な企画でした。

3月20日の伝統産業の日は、京都市内はイベントが目白押し、和服なら市営地下鉄、市バスは無料、市内の観光名所の入場無料、あるいは割引になるチケットを京都市が配布しているということもあり、まち中には、和服姿もいつもより多くみられました。

もちろん、事例研究委員会からも和服での参加者3名。総勢8名での研究会となりました。

染めの下絵描き、型紙づくりなどの体験コーナーでは、カラス口での製図はどちらが難しいか・・・というような会話に勝手に盛り上がり（職人さんはどういう集団と思ったのか疑問です）ました。小紋の型染め、染め直し、青花での友禅染の下絵描きなどをひととおり見学し、仕上がった反物の値段を確認する人、体験で染めた紋が欲しい人、個人の思いも交錯しつつ、集合地点の本能館にもどり、細かく包丁がはいった野菜と、それが八百屋さんの仕事であることに驚き、染めの手ぬぐいを買って学区のイベント体験を終了しました。



次は、明倫学区に移動。町家の残る町並みと、突然現れるマンション、景観条例施行後に建設されたマンション等々をあらためて目の前にし、考えることしばし。

危ない空模様で寒くもなってきた頃、反省会へと会場を移しました。

反省会で一息つき、日の落ちた東山へ。花灯籠は思った以上の人手でした。ところどころに休憩所があり、熱いお茶がふるまわれていました。地元の人たちによるものだという

ことでした。暗闇の中に点々とおかれた灯籠はきれいでした。

